
同を違え…

渡邊葉月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

同を違え：

【Nコード】

N2650G

【作者名】

渡邊葉月

【あらすじ】

少年陰陽師の創作小説です。しかも、ネタばれ注意作品です。

「良かったのか？昌弘」

雨にずぶ濡れになった物の怪と昌弘は安倍家に向かっていた。
神将達は先に帰ってしまい、この場には二人だけだった。

「うん…中宮には帝もついているし。それに…」

「お前には彰子だけ…か」

「うん」

ぱしゃぱしゃと水を蹴って歩く。

髪が濡れて重いなあと感じながら、それでも物の怪は続けた。

「だがな……」

やけに重い声が耳をつく。

「章子だって好きで中宮になったわけじゃないって分かってるだろう？」

「うん…中宮も言ってたね…」

「確かに、出会ったのが章子だったらお前は章子と一緒にだったかな」

「もっくん？」

物の怪の言いようが分からず、怪訝そうな顔を向けた。

そんな昌弘の瞳を夕焼けの瞳はじっと見つめてきた。

「もっくん、何が言いたいの？」

「章子が可哀相だって話だ」

「彰子を…否定するの…？」

思わず立ち止まる。

もっくんは誰の味方だ？

「そうは言っていない」

「同じだよ」

昌弘は再び歩き始める。

だが、二人とも沈黙したままだった。

先ほどよりも体が重く感じる。

それは気のせいでは無いだろう。

ふと顔を上げれば、安倍家の前だった。

「俺は先に行ってる」

物の怪はそう言って、屋敷に入って行ってしまった。

「昌弘っ！！」

高い…心地よい声が耳に優しく響く。

「彰子…」

玄関まで入ると、彰子が手ぬぐいを差し出した。

黙ってそれを受け取ると、彰子が心配そうに顔をのぞき込んできた。

「どうかしたの？もっくんは？」

「何にもないよ…ちよつと疲れただけ…」

無理矢理笑って見せるが、彰子は納得しない。

しかし、彰子から次の言葉はなかった。

そつと…抱きしめられる。

「彰…子…？」

驚きよりも、安堵の声である。

「お疲れ様、昌弘。ゆっくり休んでね」

その言葉で…

安心する。

何も要らないと感じてしまうほどに。

大丈夫だ。

俺には彰子が一番だよ。

「彰子…」

「なに？」

そつと、微笑む。

「大好きだよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2650g/>

同を違え…

2010年10月10日05時13分発行